

## ◆第1回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成29年10月6日（月曜）18:00-19:15

役場3階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

議長・副議長・議運委員長・局長・次長

平成29年度、芽室町議会改革諮問会議設置条例に基づき委嘱した5人の諮問委員により、協議にあたった。（新規3人、再任2人）

平成29年10月6日に開催された第1回会議では、広瀬議長から委嘱状を交付した後正副委員長を互選し、会長に太田氏、副会長に川合氏を選出した。

その後、「住民から見た「住民参加」のあり方とは」「住民から見える「議会活動の評価」とは」の2項目について議長から諮問を行い、事務局長から資料説明を行った。



### ■協議事項について

（資料説明を受けて、疑問点の確認等を行った）

- ・今年度は「住民から見た「住民参加」のあり方とは」について集中協議。
- ・「住民から見える「議会活動の評価」とは」については次年度の協議とする。
- ・町民は年代も広い。広報誌などを使い、議会の活動を知る町民が多くなる状況をつくることで、意見も多く出てくるのではないかと。
- ・議会だよりの全部に目を通しているのではないかと。議会中継も見ることが少ないのかもしれない。何か良いものを今あるツールに加えることができれば。
- ・住民の当事者意識の醸成をいかにしていくが重要。

## ◆第2回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成 29 年 11 月 6 日（月曜）19:30-21:30

役場 3 階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

副議長・議運委員長・局長・次長



「住民参加」について多くのキーワードを出す形で議論を進める。

### ■住民参加について

- 住民参加を必要とする理由は何か？  
⇒住民の意見を議会・行政に反映させるために必要。
- 町民の意見が形になれば興味・関心が沸くと思う。そういった目に見える事業を行うことが良い。それを町民に見せる。  
⇒いただいた意見は、何らかの形で回答・対応を示している。
- もともと関心がない人には「来てください」と言っても来ない。そうした人には、なにか「おまけ」的なもの「客寄せパンダ」のようなものが必要かも。
- (議論の場などへの) 来やすさ、参加しやすさの仕掛け。  
⇒1階のロビーや図書館などに議会中継で興味を
- 選挙の時はあっても、その後は関心がなくなるケースが多い。無関心層をいかに来ってもらうか。

### ★ポイント

○町民が参加しやすい仕掛けづくり

- 要望がある人は、自分も参加できるような形が取れたら進む。
- 何人かの町民の中に、議員も入って意見を聞き・話していくような場。

- 議員は行政ではないから、**町民の疑問や要望を一緒に考える必要**がある。
  - 議員が行政とまったく同じ回答をしているということが問題。
  - **議会がまちづくりの仕組みをレクチャー**して、みんなが考えられるようなことに取り組むのは面白い。
- 
- 議員・議会の意見の採り入れ方。**意見から内容を検討し、次のステップに繋げる。**
  - 住民の当事者意識の醸成をどう進めため、**議員は町に意見がある人の聞き役に。**
  - 問題点は、**議員の受け答えの技術力**。求められるのは、町民の意見に対する、その**奥にあるものを想像する力、未来を想像する力**である。
  - 「ご意見として伺います」という返答が多い。**意見を出した人に結果を示す**こと。
  - 意見に対して議員がどれだけ掘り下げたのか。意見から膨らまれることはできるはずだが、**その場でキャッチボール**がないといけない。
  - 議員と町民とのコミュニケーションの中身が大事。相手の立場に立った背景を、どれだけ掘り下げることができるか、という**議員の能力を高めないと**うまくいかない。
  - 議員は住民の代表だが、モニター制度を必要とする背景には議員が町民の立場から離れていること。**議員の資質、住民側の責任に関する意識**、両者の意識を高める

#### ★ポイント

- 町民と議員が一緒に話し合う場・学ぶ場の設置
- 議員の「聴く力」「想像力」「議論する力」「まとめる力」

- (モニター会議などで) 最初の説明が重要。言っても何にもならないということではない、という意識に変える。
- 議会が高校生と意見交換をしている場面を**ライブ中継**。(YouTube など)
- **もっと町民の目に触れる**ような手段を。
- 質疑や討論内容、論点をまとめて文字にして、一括して見ることができると良い。
- もっと町民に**議会の取り組みを分かってもらえる**と議会に興味を持つきっかけに。
- 議会の**情報を気軽に目にする機会を増やす**ことで、関心を持ってもらう。
- 議会や政治について、そもそも難しくて分からないという人に、子ども議会のようなことでも、興味を持つきっかけにはなる。
- 子どもと一緒に親も参加して関心を持ってもらう。

#### ★ポイント

- 情報発信の工夫 — 情報の内容、手段・手法

### ◆第3回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成 29 年 12 月 4 日（月曜）19:00-21:30

役場 3 階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

副議長・議運委員長・局長・次長



1・2回目の協議を踏まえて、住民参加ツールについて煮詰めていく。

#### ■PTAとの意見交換を傍聴して

- ・冒頭の議員活動の紹介は分かりやすかった。
- ・活発に意見を出す人もいれば、どんな意見を言えばよいのか戸惑っている人もいる。  
各テーブルの意見を、最後や中間などでまとめて発表してくれると、「あ、そういう意見でいいんだ」と感じる人もいるのではないか。敷居を下げるような工夫をしたらよい。
- ・（議員の発言で）「（意見を）委員会のテーブルに載せる」という発言があった。そこで、一歩進んだ発言があったということは、意見交換を行う意義はある。

#### ★ポイント

○意見交換途中でのグループ間情報共有

## ■議会モニター制度について

- モニターに対しては、小学生でもわかるくらい、**しっかりと入り口で伝えていく**必要がある。
- モニターを降りるときに、誰か他の人を紹介する、幅を広げていくことも必要。
- 自分から（モニターとして）参加するようなことになっていないということは、議会からの伝わり方が鈍いということかもしれない。議会モニターの活動自体、普段から目にしていない。
- まずは参加してもらうことがあっても良い。（きっかけが大事）
  
- （モニターでなくとも議会や議案に）興味があれば、議会傍聴するなど議論を目にできる機会をより多くするようなことを工夫して。
- 広く一般の人をモニターに、とすると難しいのかもしれないが、もともと興味があるひとにアクションがあるといい。
- 住民の**傍聴ニーズなどをうまく捉えて、工夫を**することで、一般の人が見に行きやすくなる。
- 事前に町民がその日に議論する話題が分かれば傍聴に来る。
- 町民に伝わる**情報が多ければ目に触れる機会が多くなる**。
  
- モニターコメントを求められるようなことも、難しさになるのかも。
- 裁判員制度のような仕組みでモニター選定を**ランダムに当選方式**に。
- モニター応募の**声掛けの段階での制度（モニターの役割）理解**が大事。
- **議員一人ひとりが、このツールをしっかりと伝えていく**ことが重要。
- 分からない人にどう伝えるかということを、**全議員がどう思っているのか**。

### ★ポイント

- 町民に対するモニター制度の周知・情報発信の工夫
- モニター・モニター候補者に対する「制度（役割）理解」の促進
- モニターでなくとも「参加」できる工夫

## ■議会フォーラム・意見交換について

- 子供のころからの（意見交換などの）取り組みは大事。
  - 高校生のフォーラム自体をネット中継してはどうか。他の高校生たちが見るような機会を作るのも大事。
  - 他の高校にも話を広げて、芽室出身の子どもが参加して、芽室に対する意見をもらうような取り組み。
  - 全校集会の前の時間など、議員と学校の代表者とが意見交換をする、ショー的な要素、公開討論的なやり方。
    - ⇒その世代が興味あるテーマだと関心を持つ。
    - ⇒学校の協力が必要。
    - ⇒子供たちの学びの場となる。
  - 18歳をターゲットにしたフォーラムはインパクトある。選挙が関係するのであれば、町の選挙担当ともタイアップするなど。
  - 議会甲子園のような形で、高校ごとの高校生に提言してもらうのは面白い。
  - 成人式で集まる新成人を対象にするのもあり。責任を持つ年代ということで、一つの節目になる。
  - テーマと年代層を区切るということ、見せ方など工夫すると良い。（将来の自分に対する不安から議論に入っていく、など）
  - 将来を考えると、小学校から興味をもってもらうようなことが必要。（社会科などで、町の議会を勉強する）
- 
- これらの話は、やれば楽しいが、やるかな？というところが気になるところ。学校側に協力体制が得られるのなら、やってみるのは良い。
  - 続けていくと、それが普通になっていく。
- 
- フォーラムの姿を責任世代に見せつけるためにも、ショー的な取組は大事。
  - 進行は、専門のコーディネーターをやった方が良い。
- 
- 社会全体が人と人との繋がりを必要としている。

### ★ポイント

- 情報発信の工夫 — 情報の内容、手段・手法（再掲）
- 芽室の子どもによる意見交換
- 年代に合わせたテーマ設定、開催手法の工夫

## ■ホットボイス・議会傍聴・参考人制度などについて

- 住民の思っていることをすべて聞き入れてしなうのはいかがか。
- きっかけはホットボイスで、さらにその奥にある本当の課題を聞き返すような仕組みがないのか。
- 「まち」を作っている人って、（JAとか商工会など）関係団体の方々であることが多い。やっているのかもしれないが、現実的には町政に反映されていないと思っている人が多い。議会は、意見を持っている人から聞くということから始めたほうがいい。
- 議会は、現場でいろいろと調査して聞き取っていくことが必要。

### ★ポイント

- 住民の「本当の課題」を掘り下げる仕組み・工夫
- 意見・考えを持つ「対象者」の絞り込み

本日の議論までの中で、現状のツールに対するキーワードを出してきた。  
次回会議では、これまでのキーワードに肉付けをしていく。

## ◆第4回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成30年1月22日（月曜）18:30-21:15

役場3階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

副議長・議運委員長・局長・次長



第1～3回までの議論のポイントをまとめて、一定の整理を行っていく。  
現在のツールの改善、新たな視点の住民参加ツールの検討など、答申に向けて、具体的に詰めていくこととしたい。

### ■傍聴

- 議会傍聴の際、議案によっては、傍聴する前段にある程度知識がないと理解しづらい場合もある。
- 説明資料のようなものあればいいが、（準備するのは）難しいかも。

### ■議会モニター制度について

#### ◆モニター選考

- 例えば、テーマごとにモニターを変えるということは出来ないのか。
- 制度を知らない人もまだまだ多い。ランダム当選方式で選定するのも良い。
- 議会のことを知ってもらいたいなら、今のやり方で良いが、政策に結びつけるのであれば、もっと理解出来ている人になっていただくのが良いのでは。
- 1年目で知識を吸収し、2年目で意見を述べる、というような流れがあった方が、受け止めやすい

- 2年目には深く「部会」などに分かれて、ステップアップしていくと、政策的な意見も出るのではないか
- 議会に対する知識や意識が少しでも上がる人が増えてくれば。広げていくことが大切。

#### ◆テーマ設定

- 関心をもってもらうためのテーマ設定の根拠を考えると、人が持つ「不安」というものに着目した設定が大事。
- 逆に「希望」「やりたいこと」などに着目して、議論を広げるようなことも良い。
- テーマが自分に合っているかは人それぞれで、それを「選択できる」といいのではないか。テーマごとに1年間通して議論していくような。
- 最初からテーマが分かっていると集まりやすい。
  - 特定の課題に対する「専門家集団」として政策に繋がる可能性。
- そうしても、人が来なかった。そうした応募に一般のモニターさんと合わせてやるのもいいかも

#### ■フォーラム・意見交換・ホットボイス

- 苦情や意見の背景にあるものを掘り起こすことが必要。
  - 町民の心にある本当の理由、不安、想いを汲み上げて。
  - 行政の思いが住民に伝えられるような仕組みになればと思う。
  - 問題点を抽出するところまではいいが、その後「その問題をどうしていくのか」。
  - 「意見を聞きます」というが、議員が町民を諭す場があってもいいのではないか。
  - 町内会に対して、議員が出向いて意見を吸い上げるようなこと。
  - 相手（ニーズ）に合わせることで、言いやすい環境を作ることも必要。
- 
- ショー的な要素を入れる、結論の出ないディスカッションを行うなど、面白い。
  - 話し合いをしていること、顔を合わせていくことが大事。
  - 普段からの住民と議会の接し方をどう構築していくかということが必要なのではないか。信頼関係を作り上げるような。そういった場は求められている。「〇〇カフェ」みたいな。

## ■アンケート

- アンケートで「どんなことを不安に感じていますか」と訴えていくことも、参加の方法かも。次にどう繋げていくか。興味・関心をもってもらうための入り口にはなる。

## ■情報発信

- 今行っている情報発信が、ちゃんと伝わっているのか。
- そもそも議会に関わりが無い人は、よほどではないと見ない。意見交換でもなんでも関わった人は見るから、いかに議会に関わる人を増やしていくかが大事。
- 目的意識がない人は議会だよりも見ない。見る人は関心がある人だから、関心がある人を増やしていかなくてはならない。
- 大事なものは継続すること。種をまいて実になるのは時間がかかる。あとはその手ごたえをどこで確認していくか。

本日の議論の中で、一定の意見が蓄積されている。

これまでの意見を集約し、事務局で原案作成して、事前送付と修正案を考えながら、次回会議に臨む。

5回目の会議となる次回会議において、答申書を完成していきたい。

## ◆第5回議会改革諮問会議の協議内容◆

平成30年3月9日（月曜）19:00-21:00

役場3階議長応接室

太田・川合・小山・馬場・牛嶋委員出席

議長・議運委員長・局長・次長

前回までの議論を踏まえて「たたき台」から、提言書の仕上げを行うため、詳細を協議する。

### ■議会モニター制度

- ・テーマ設定について、人が持つ「不安」「希望」「やりたいこと」などに着目して、議論を広げる、というように一つにまとめる。

### ■議会フォーラム

- ・先日開催した、未来フォーラムⅢに自分も参加したが、すごく積極的に対話ができ、非常に新しい刺激を受けた。いろんな人が出ていって参加することでいろんな意見が出るし、フォーラムの必要性を感じた。
- ・町内在住の高校生を対象とした意見交換をやっていく方向は重要。
- ・芽室で働きたいと思っても場所が少ないし、芽室で働けるようなきっかけとなる議会との対話の機会があれば、芽室での就職を選択する子供さんが増えるのではないかな。
- ・中学生の海外体験（トレーシー派遣）を芽室町で働いて芽室町に返していくようなことがあると、海外体験がより生かせるのではないかな。そういった子供さんたちとも、議会と対話する機会があると良い。
- ・小中学生に教えるののも大事だが、その親世代にも議会を知ってもらうことも重要だし、子どもと一緒にだと分かりやすいということもある。親子議会なども検討してみると幅が広がるもの。→ 「親子での参加」を例示に加える。
- ・意見交換の方向性で、正解を求めるような議論ではなく、多様な見解があって、それを引き出すようなディスカッションが良い。→ 多様な答えを引き出すような、とする。

（町民と職員と議員がともに語る場について）

- ・若手職員と議員との意見交換なども良いのではないかな。
- ・町民から見ると、もっと意思疎通してやれば…と思う。互いに議論をするということであるから、そういった場があればいい。

- 職員だって出向で議会にきているが、その仕組みがちょっと理解しにくい面である。行政の制度なのかもしれないが。
- 議会と理事者側の間に仲人がいれば楽なのではないか。
- 町民みんなが声を出せば変わらざるを得ないのかも。
- 町民と議会、職員が同じ場で話せるような場を、どのように表現したらよいか。競い合うのではなく町民からの問いに対して、それぞれが見つけるということ。
- 町民の意見を共有することは大事。
- 対等な形で議論しないと町民のためにならない。
- 答えを競うのではなく、町民の思いをどう両者が引き出すかという場であることでは。そうすると、その間に入る町民の力が問題になってくる。→双方をつなぐ、ファシリテータのような人が必要かも。

→答申の文面には加えず、こうした議論があったということ、他議員に、伝えていくこととする。

以上、一部、追加修正し 20時45分 会議終了。

20時55分 大田会長から広瀬議長に提言書を手交する。

